

平成18年度 資源循環技術・システム表彰「CJC会長賞」「奨励賞」受賞について
～持続可能な省資源型社会の形成をめざして～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は、石油精製部門である新日本石油精製株式会社(社長:小沢 稔)と共同で、「再生触媒の利用推進による触媒廃棄量の削減」への取り組みに対し、※1財団法人 クリーン・ジャパン・センター(CJC)より、平成18年度資源循環技術・システム表彰「CJC会長賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。また、当社は、「新規建設材料『レコサール』(改質硫黄固化体)の開発」で、同表彰の「奨励賞」を受賞いたしました。

「資源循環技術・システム表彰」は、廃棄物のリデュース・リユース・リサイクル(3R)によって廃棄物、資源問題の解決、即ち、持続可能な省資源型社会の形成を推進するための先導的な事業に与えられる賞です。今回の受賞は、当社グループの3R活動が高く評価されたものです。

当社は、国内7製油所、30基以上の脱硫装置から排出される各種の使用済み触媒に、最適な再生方法、再利用方法を適用する技術とシステムを構築しました。この「再生触媒の利用推進による触媒廃棄量の削減」への取り組みでは、コバルト、モリブデン、ニッケルなどの再生可能な金属類を含む触媒の廃棄量を約20%(年間約1,000トン)削減することに成功した実績が高く評価されました。

また、「レコサールの開発」では、原油から各種石油製品を製造する過程で分離される「硫黄」と、石炭灰、ホタテの貝殻など他産業からの廃棄物を組み合わせて建設材料(商品名:レコサール)を開発した技術力が高く評価されました。なお、このレコサールの開発は※2財団法人 石油産業活性化センターの石油精製等高度化技術開発事業として当社が実施したものです。

新日本石油精製(株)は、廃棄物の削減や再資源化により、2005年度実績で廃棄物の発生量に対する最終処分量の比率が1%未満である※3ゼロエミッション(最終処分率0.6%)を石油業界で初めて達成しております。当社は、今後も、地球環境保全に寄与する資源の有効利用に挑戦し、持続可能な省資源型社会の形成に挑戦し続けることで、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指してまいります。

※1 財団法人 クリーン・ジャパン・センター: 経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会等をはじめとする官民一体の支援のもとに1975年にリサイクル推進のナショナルセンターとして設立された公益法人です。センターでは、廃棄物のリデュース・リユース・リサイクル(3R)によって廃棄物、資源問題の解決、即ち、持続可能な省資源型社会の形成を推進するための先導的な事業に取り組んでいます。

※2 財団法人 石油産業活性化センター: 石油産業を中心とし、石油開発、エンジニアリング、機械、電気、シンクタンク、金融等広範囲にわたる関連産業の賛同を得て、石油産業の活性化を促進するための中核的機関として、1986年(昭和61年)5月に設立しました。創立以来、構造改善・支援事業、技術開発事業、調査事業、1992年(平成4年)から国際協力事業を加えた4分野を中心に取り組むとともに、1991年(平成3年)には、「石油基盤技術研究所」を設置し、技術開発の拠点としての体制を整備してきました。

※3 廃棄物最終処分比率1%未満をゼロエミッションと定義しているものでは、業界初。

以上

添付資料:授賞式の模様(写真)



写真:左から 新日本石油・安達技術部長、新日本石油精製・前原執行役員、新日本石油・大澤開発部長